

小山田地区まちづくり構想

——素案 12/8 版——

平成 29 年 12 月

ごあいさつ

小山田地区では、その地形的制約などから地区内の9町がそれぞれの特色を生かしながら、個性あふれるまちづくりを進めてきました。しかし、人口減少や高齢化、地区の経済を支えてきた農業の低迷など、小山田地区を取り巻く環境は非常に厳しさを増しています。

こうしたなか、四日市市が制定した「四日市市都市計画まちづくり条例」に基づき、地区で策定した構想を市に提案することができる制度を活用し、行政と協働でまちづくりを進めていくため、平成26年9月に「小山田地区まちづくり構想策定委員会（以下、「まちづくり委員会」という。）」が約2年間の自治会による準備を経て、各団体の推薦委員や住民公募の委員が集まり発足しました。以降、月に1回程度、まちづくり委員会を開催し、「小山田地区まちづくり構想」の策定を進めてきました。まちづくり委員会では、地区をまわり実際に現地を見ることなども含め、問題点や地域資源の共有を図りながら、構想策定のために30回以上に及ぶ会議を開催しました。さらに、小学生にアンケートを実施したり、構想案を各世帯に配布し、意見募集したりすることにより、より多くの住民の声を反映するよう努めました。

その結果まとまった「小山田地区まちづくり構想」では、「**世代・時代・地域を越えて『つながろう・つなげよう小山田』**を基本理念（大切にしたいこと）とし、将来像として「**子孫に残す 元気で住み続けられるまち 小山田**」を目指すこととしました。まさに、小山田地区の住民がひとつにつながって、ともによりよい小山田を築いていく取り組みを進めることにより、私たちの美しいまち小山田が子や孫、そして未来へと引き継がれていくことを願うものです。

平成●年●月

小山田地区まちづくり構想策定委員会

目 次

○ ごあいさつ

1 はじめに

- 1. まちづくり構想とは 2
- 2. 小山田地区のあらまし 3

2 基本的な考え方

- 1. 基本理念（大切にしたいこと） 6
- 2. 将来像（小山田の目指す姿） 7
- 3. 基本目標（小山田が向かうべき大きな方向） 7
- 4. 体系図 9

3 取り組み方向

- 1. 人と人とのつながりで、だれもが安全・安心に暮らせるまち 12
- 2. 活気があり、快適に暮らせるまち 19
- 3. 自然や農業を通じてまとまり、つながるまち 25
- 4. ふるさと愛を育み、発信するまち 31
- 5. まちづくり構想図 35

4 まちづくり構想の実現に向けて

- 1. 推進体制 38
- 2. 意識の共有と協働まちづくり 39

策定資料

- 策定体制.....
- 策定経過.....
- 小学生アンケートの結果.....
- 資源・課題マップ.....

1 はじめに

1 はじめに

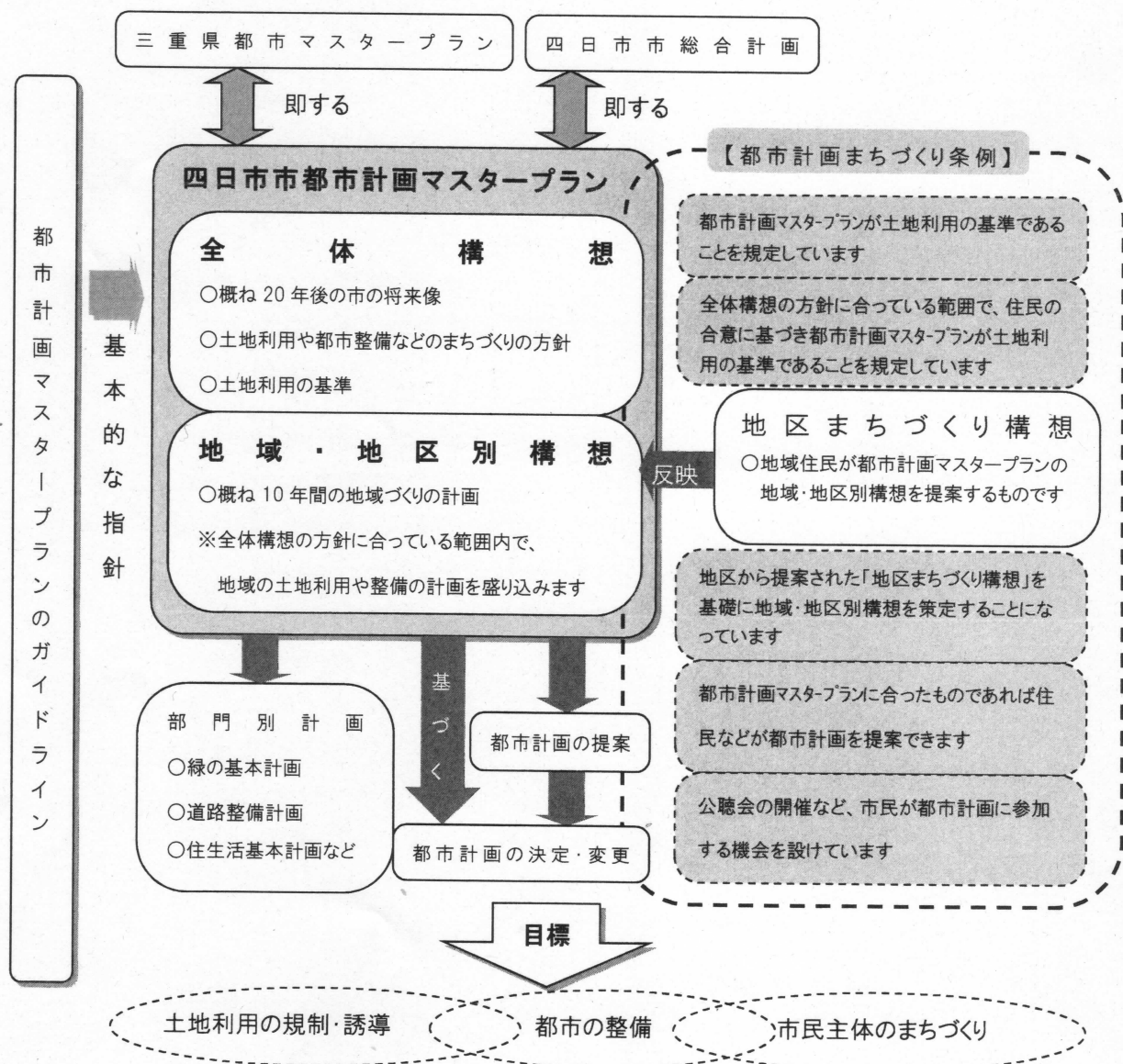
1. まちづくり構想とは

「小山田地区まちづくり構想」は、今後 10 年間の小山田地区の土地利用や基盤整備など将来のまちづくりの目標や方向性を定めたもので、私たち地区住民が主体となって策定した小山田地区のまちづくりの方針です。

小山田地区まちづくり構想を、地区住民の合意を得て市に提案すると、まちづくり構想の提案内容を受け、市が今後進めるべき施策や事業を、都市計画マスタープラン地域・地区別構想である「小山田地区都市計画マスタープラン」としてまとめていきます。

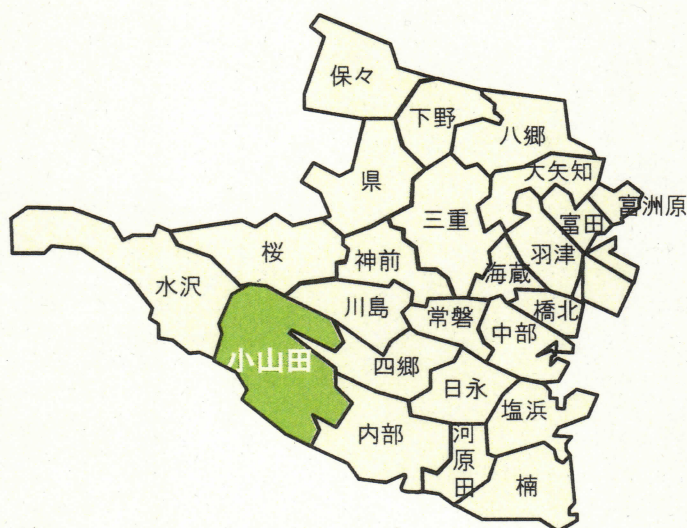
これらの手続きは「四日市市都市計画まちづくり条例」に位置づけられており、地区住民と市は、都市計画マスタープラン地域・地区別構想にそって、協働でまちづくりに取り組んでいくことになります。

【地区まちづくり構想の位置づけ】



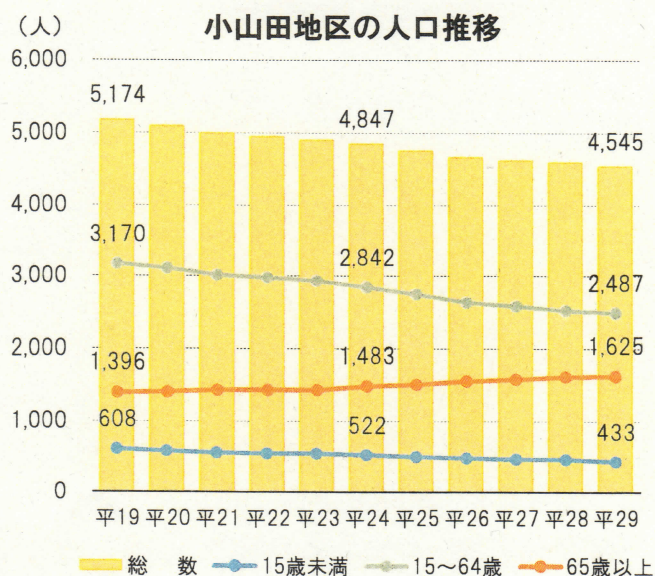
2. 小山田地区のあらまし

小山田地区は、四日市市の西南部に位置し、東西 6.9km、南北 5.6km の広がりを持つ、18.35km² と市内で 2 番目に面積の大きな地区です。北には桜地区と川島地区、西には水沢地区、東には四郷地区と内部地区があり、南側は鈴鹿市に接します。西方に鈴鹿山脈を望み、丘陵地には茶畑が広がる一方、内部川、鎌谷川、足見川、天白川といった川沿いの平野に水田が広がる田園地帯で、丘陵地と平野との境目の段丘崖が森林となる起伏に富んだ地形をなしています。



小山田地区は、点在する旧石器時代や縄文時代の遺跡が物語るように、古くから人びとの営みがみられ、古代の文献にも地名が確認できる歴史ある地区です。中世には「小山田御厨（みくりや）」として伊勢神宮の神領であったとされ、戦国時代には、室町幕府の十二代将軍足利義晴の重臣であった矢田監物をはじめ有力な郷士が各地を支配していたと伝えられます。その後、明治

22 年の町村制の実施に伴い、当時の山田村、小山村、堂ヶ山村が合併して小山田村が誕生しました。



小山田地区の平成 29 年 10 月現在の総人口は 4,545 人、世帯数は 1,916 世帯で、年々人口減少と高齢化が進んでおり、総人口はこの 10 年間（平成 19 年→29 年）で 600 人以上減少する一方、65 歳以上の人口は 1,396 人から 1,625 人へと増加し、高齢化率（65 歳以上人口比率）も 35.8% に上っています。逆に、14 歳以下の人口は 608 人から 433 人へと減少しています。

小山田地区の大部分は市街化調整区域であり、かつ農業振興地域とされ、優良農地と農業集落が地区の基盤となり発展してきました。一方、一部の市街化区域は「南部工業団地」と呼ばれ、工業専用地域となっています。地区内を横断する通称ミルクロード、フラワーロードの交差するエリアには病院と特別養護老人ホームなどの福祉施設が集積し、小山田地区の大きな特徴となっています。また、地区北部には市の南部清掃工場と県環境保全事業団の新小山最終処分場があります。

2 基本的な考え方

世代・時代・地域を越えて 「つながろう・つなげよう小山田」

鈴鹿山脈の山裾から緩やかな傾斜でつながる丘陵地には茶畑が広がり、川が開いた谷筋の田んぼでは無数の稲穂が風に揺れます。丘陵地の縁にあたる斜面には木々が茂り、地下水路であるマンボからは絶え間なく水が流れています。四季を通じて桜、ヒメコウホネ、れんげ草、彼岸花などの花々が咲き、ウグイスやキジの声が聞こえます。夏にはホタルが飛び交い、冬には雪をいただいた鈴鹿山脈を借景として、どこにいても絵になる、そんな自然豊かな農村地帯が私たちの住む小山田地区です。この地には、太古の昔から人びとの暮らしがあり、先人のたゆまぬ努力の上にこのような美しい地区の姿があります。この先もずっと、時代を越えて小山田地区の美しさを未来につなげたいという思いがあります。

昭和30年代になると四日市市に合併し、広い地区内に9つの町（内山、小山、鹿間、堂ヶ山、西山、美里、山田、六名、和無田）を持つ小山田地区が誕生しました。しかし、小山田地区は面積が広いうえ、起伏に富んだ地形などのため集落も点在しており、これまで各町が独自にまちづくりを進めてきました。今後、徐々に人口が少なくなる社会だからこそ、9町の枠を越えて小山田地区として1つにつながることで、今まで以上に地区を元気にしていきたいという思いがあります。

現代社会は、核家族化が進み、地域とのかかわりが少なく、人と人とのつながりが希薄になっています。少子化、高齢化が今まで以上に進むなかでは、その傾向はより一層強まるおそれがあります。一方、小山田地区は人口が少ない反面、人と人の関係が強い地域であり、大人も子どももみんな地域のことが大好きです。これからの時代においては、そうした人のつながりやふるさとへの愛着が強みとなります。9町の横のつながりのみならず、親から子、そして孫へとつながる世代間の縦のつながりを大切にしていきたいという思いがあります。

この「小山田地区まちづくり構想」をきっかけに、こうした「つながり」を大切にし、小山田地区に笑顔の輪を広げていくため、基本理念を定めます。

2. 将来像

小山田の目指す姿

子孫に残す 元気で住み続けられるまち 小山田

基本理念の「つながろう、つなげよう」という思いを大切にしながら、子や孫の代まで、将来にわたって笑顔を決やさず、元気で住み続けられる小山田地区であることを願い、将来像を掲げます。

3. 基本目標

小山田が向かうべき大きな方向

将来像を実現するため、大きな4つの目標を掲げます。これらの目標に向けて、小山田地区にかかわるすべての人や組織が一丸となって取り組みを進めていきます。

○人と人とのつながりで、だれもが安全・安心に暮らせるまち

世代を越えて人と人がつながり、みんなで見守り、助け合うことによって、住民が安全に安心して暮らせる小山田地区を目指します。

○活気があり、快適に暮らせるまち

地区内とともに地区外との移動がしやすく、またみんなが集える生活拠点があることで、住民が便利で快適に暮らせる、活気のある小山田地区を目指します。

○自然や農業を通じてまとまり、つながるまち

地区の特徴である豊かな自然や農業をみんなで守り、将来に引き継いでいくことを通じて、地区のまとまりやつながりを生み出せる小山田地区を目指します。

○ふるさと愛を育み、発信するまち

地区の特徴を知り、郷土愛を育みながら、住民どうしが交流し、地区の文化を守ること、素晴らしさを発信できる小山田地区を目指します。

4. 体系図

基本理念 [大切にしたいこと]	将来像 [小山田の目指す姿]	基本目標 (小山田が向かうべき大きな方向)	(小山田の目指す姿)
世代・時代・地域を越えて「つながろう・つなげよう小山田」	子孫に残す 元気で住み続けられるまち 小山田	1. 人と人とのつながりで、 だれもが安全・安心に暮らせるまち	(1) 高齢者が憩い、目 (2) 子どもが見守られ (3) 災害に強く、犯罪
		2. 活気があり、快適に暮らせるまち	(1) 地区内外が移動し (2) 若者などが気軽に (3) 地区内に拠点があ
		3. 自然や農業を通じてまとまり、 つながるまち	(1) 自然と美しい景観 (2) 地区全体で取り組 (3) 地区内外の人が親
		4. ふるさと愛を育み、発信するまち	(1) 地域の文化、伝統 (2) 住民どうしが仲良 (3) 小山田地区の良し

基本方向 (小山田が取り組むべき方向)	取組方向 (具体的な取組の方向)
い、助け合えるまちづくり	①高齢者の居場所づくり ②助け合い活動、困りごと支援 ③医療・福祉施設との連携強化
守られ、安心して子育てできるまちづくり	①認定こども園の誘致、学童の充実 ②地域ぐるみで教育、見守り ③子育て世代の交流機会づくり
、犯罪や事故に遭わないまちづくり	①自然災害予防の対策 ②犯罪防止のパトロール、住民の安全対策 ③通学路、狭あい道路等の整備
移動しやすいまちづくり	①南北方向への道路機能の強化 ②高速バス等の新たな交通手段の検討 ③その他の交通手段の活用
気軽に住める（戻ってこられる）まちづくり	①若年世帯の居住促進環境の創出 ②空き家、空き農地の活用による居住環境の整備 ③若者なども楽しめる場・機会づくり
点ができ、集えるまちづくり	①各種施設の集約化 ②公共施設、商工業施設の誘致 ③スポーツ施設や公園等の設置促進
い景観を守るまちづくり	①自然や景観の保護、活用 ②自然を活用したイベント等の実施 ③荒れ地の整備、不法投棄対策
取り組む農業のまちづくり	①農業を生かした組織づくり ②定年後に農業ができるしくみづくり ③農業体験、農業イベントの実施
人が新鮮な農産物を手に入れられるまちづくり	①産直（朝市）の場づくり ②産直のための組織づくり ③特産品づくり
、伝統行事が引き継がれるまちづくり	①地区全体での祭り、行事の実施 ②後継者の育成
が仲良く交流するまちづくり	①地区全体での文化祭、運動会の開催 ②外国人住民との交流
の良いところを知り、発信するまちづくり	①地区の歴史、史跡などのマップづくり ②新たなシンボルづくり

1. 人と人とのつながりで、だれもが安全・安心に暮らせるまち

(1) 高齢者が憩い、助け合えるまちづくり

① 高齢者の居場所づくり

《現状と課題》

- 小山田地区内の各町では、山田町の「ひだまりカフェ」、鹿間町の「元気になる会」、和無田町の「ふれあい」、西山町の「はればれクラブ」など、地域住民の集いの場がつくられています。こうした集いの場は、高齢者が気軽に集まり、交流の場となるとともに、健康づくり、生きがいづくりや閉じこもり防止などのさまざまな効果があります。小山田地区では交通の問題もあることから、できる限り、高齢者が自発的に歩いて行ける範囲に、気軽に安心して集える場、サロンがあることが望まれます。

《取組方向》

だれが	なにを、どのように	いつごろ
地域みんなで取り組むこと	高齢者だけでなく、子どもやその保護者なども集えるふれあいの場を各町につくります。 あわせて、「いきいき百歳体操」など、地域住民が集まるツールを検討します。	短期

② 助け合い活動、困りごと支援

《現状と課題》

- 小山田地区でも、高齢者のひとり暮らしが増えてきており、日常的な見守りとともに、ごみ出しや買い物などの生活支援を必要とする人も多くなっています。また、災害などの発生時にも、避難などを手助けすることが必要になります。こうした状況に対し、隣近所や各町内での世代を越えた助け合いが求められますが、どのような体制でどのように取り組んでいくべきかを検討することが必要です。

《取組方向》

だれが	なにを、どのように	いつごろ
地域と企業や団体が協働して取り組むこと	介護保険の対象にならないものの、日常生活に困っている人に対する相談の場を設けます。 相談は青山里会で受け付けてもらい、ごみ出しや買い物などの支援はボランティアによる地域の応援部隊が担います。	短期

③医療・福祉施設との連携強化

《現状と課題》

- 小山田地区の大きな特徴として、地区内に小山田記念温泉病院といった医療機関や、青山里会のさまざまな福祉施設が立地していることがあります。これらの病院・施設においては、施設の地域開放による健康・介護予防教室（「小山田学校」、「健康まもり隊」など）やイベントの共同実施など、地域とのさまざまな連携が図られています。今後、小山田地区もより一層の高齢化が進むことから、こうした医療・福祉機関との連携をますます強化していくことが求められます。

《取組方向》

だれが	なにを、どのように	いつごろ
地域と企業や団体が協働して取り組むこと	医療・介護が必要にならず、健康寿命が延ばせるよう、小山田在宅介護支援センター、四日市市南地域包括支援センターといった医療・福祉施設との連携を発展させます。	短期

現状	小山田地区には、小山田記念温泉病院、青山里会、小山田学校、健康まもり隊など、医療・福祉施設が立地している。	小山田地区の医療・福祉施設との連携を強化する。
取組中	小山田地区の医療・福祉施設との連携を強化するため、小山田地区の医療・福祉施設との連携を発展させる。	小山田地区の医療・福祉施設との連携を発展させる。



(2) 子どもが見守られ、安心して子育てできるまちづくり

①認定こども園の誘致、学童の充実

《現状と課題》

- 小山田地区には幼稚園も保育園もなく、就学前の子どもたちは、近隣の高花平幼稚園、水沢保育園や、鈴鹿市の岸田保育園、くまだ保育園などに通園しています。小学校へのつながりや保護者の利便性を考えると、地区内に幼稚園や保育園があることが望ましいと言えます。近年、国では幼稚園と保育園の機能を併せ持つ認定こども園を推奨していることから、小山田地区では、新たに認定こども園が開設されるよう、関係機関に働きかけていくことが求められます。また、保護者の就労にともない、小学生の放課後の居場所となる学童保育（放課後児童クラブ）のニーズが高まっています。小山田地区では平成27年4月に学童「ひまわり」が開設されましたが、小学校から離れた山田町高齢者・若者センターに間借りした状態が続いています。子どもの安全かつ快適な居場所となるよう、学童保育については、場所などの検討が必要です。

《取組方向》

だれが	なにを、どのように	いつごろ
行政や関係機関に働きかけること	小学校から学童保育まで歩かずに放課後過ごすことができるよう、学校の空き教室等の活用を再度働きかけます。	短期
地域と企業・団体が協働して取り組むこと	認定こども園 ¹ などの設置に向けて、民間事業者に働きかけると同時に、土地の提供などについて地区としての協力を行います。	中期



¹ 認定こども園とは…保護者が働いている、いないに関わらず、就学前の子どもに教育・保育を一体的に行う機能と、地域における子育て支援として相談活動や親子の集いの場の提供などを行う機能をあわせ持つ施設として、都道府県知事から認定を受けた施設をいいます。

②地域ぐるみで教育、見守り

《現状と課題》

- 小山田地区でも、年々子どもの数が減少していますが、子どもは未来への希望であり、地域の宝であるとの考えから、小山田地区では「あいさつ運動」などを通して地域の大人が子どもたちを見守り、育成していこうとする土壌があります。また、小山田小学校においても、地域のことを学んだり、住民との交流機会を設けたりするなど、地域とのかかわりを大切にしています。今後も、地域、学校、家庭が一体となり、子どもたちを見守り、育成していくことが求められます。あわせて、身近な場所で、子どもたちが自由に使える学習の場があり、地域の大人が教えられるような環境づくりが望まれます。

《取組方向》

だれが	なにを、どのように	いつごろ
地域みんなで取り組むこと	大人が率先してあいさつを行い、子どもたちの見守りを行います。また、防犯協議会を立ち上げます。	短期
	「見守り隊」などのシールを車に貼り、「小山田地区全体で見守っている」という雰囲気をつくります。	短期
行政や関係機関に働きかけること	子どもたちの帰宅時刻に合わせた放送を行えるよう、放送設備の整備を働きかけます。	短期

③子育て世代の交流機会づくり

《現状と課題》

- 地区の中には子育て世代を対象とした交流の場が少ないという声が聞かれます。子育ての楽しさや悩みなどを共有して、安心して子育てできる小山田地区になるよう、子育て世代の交流の場、活動の場を創出していくことが求められます。

《取組方向》

だれが	なにを、どのように	いつごろ
地域みんなで取り組むこと	子育て世代が気軽に集まれる場づくりを行います。	中期
	子どもが集まり、あわせて大人も集まれるよう、マルシェ ² などの子育て世代向けのイベントを創出します。	中期

² マルシェとは…フランス語で「市場」の意味です。近年、農産物や手作りのものを持ち寄るイベントとして開催される市場を指すことが多く、「〇〇マルシェ」のように用いられます。

(3) 災害に強く、犯罪や事故に遭わないまちづくり

①自然災害予防の対策

《現状と課題》

- 小山田地区は内陸に位置するため津波被害の心配はありませんが、起伏に富んだ地形のため、場所によってはがけ崩れの危険性があります。また、地区内を流れる内部川では、過去に何度も水害が発生しており、鹿間町はかつて集団移転したことが知られています。鎌谷川、足見川でも、川幅が狭くなるなど、浸水被害のおそれがあります。こうした危険箇所においては、県による土砂災害のおそれのある区域の指定や河川堤防の改修、河床の浚渫などが進められています。今後も自然災害を未然に防ぐため、対策工事を促すとともに、地震や水害などが発生した際には、要介護高齢者や障がい者といった支援の必要な人を援助するなど、地域で助け合う態勢を整えておく必要があります。

《取組方向》

だれが	なにを、どのように	いつごろ
行政や関係機関に働きかけること	高齢者・障がい者に対して双方向でやりとりができるよう、防災無線をはじめとした連絡手段を検討します。	中期
	自然災害の危険性がある箇所について、小山田地区防災連絡協議会における情報収集などを行い、早急な対策を行政に働きかけます。	短期
地域みんなで取り組むこと	プライバシーの問題に配慮しながら、地域内での連絡システムを充実させます。	短期
	各町内においても、自然災害の危険性について理解されるよう、防災マップなどをつくり、地域内での安全教育を行います。	短期



②犯罪防止のパトロール、住民の安全対策

《現状と課題》

- 近年、ひとり暮らしの増加や社会関係の希薄化につけ込み、高齢者を狙った振り込め詐欺などが全国的に多発しています。小山田地区は地域のつながりが強いことからこうした犯罪が起きにくいと思われる反面、防犯活動はそれほど積極的ではないことから、今後は、犯罪を未然に防止するための取り組みを進めることが求められます。一方、市内では子どもの登下校時における不審者情報なども多く、子どもに対する犯罪への不安が高まっています。小山田地区では、各町から学校までの通学距離が長く、危険な箇所も存在することから、子どもたちが安全に通学できるような対策が必要です。

《取組方向》

だれが	なにを、どのように	いつごろ
地域みんなで取り組むこと	「つながろう小山田」のマークが入った車で地区内を巡回し、子どもの見守りパトロールを行います。	短期
地域と企業や団体が協働して取り組むこと	認知症サポーター養成講座を開催するとともに、徘徊高齢者の捜索訓練や各町の防災訓練を行います。	短期
地域と行政が協働して取り組むこと	四日市市防犯カメラ設置にかかる補助金を積極的に活用し、地域の防犯力を高めます。	短期

③通学路、狭あい道路等の整備

《現状と課題》

- 地区内をつなぐ道路は通学路となっていることも多いですが、ところどころに狭い箇所が見られ、集落内では歩道が設置できない箇所もあります。その一方で朝夕の通勤時間帯には、いわゆる「抜け道」として集落内を通過する車が多く、子どもたちが危険にさらされています。県道宮妻峽線など主要な道路においても、歩道幅が十分ではなく、道路交通量が多いために小・中学生の通学が危険な箇所が見られます。子どもたちが安全に通学できるよう、狭あいな箇所の整備や交通安全施設の設置など、通学路をはじめとする道路の安全対策を進める必要があります。

《取組方向》

だれが	なにを、どのように	いつごろ
地域みんなで 取り組むこと	地域みんなで見守る体制を整えます。 通学路についても見直しを検討します。 カーブミラーの手入れを行います。	短期
地域と行政が 協働して取り 組むこと	大型トラックの通行規制や速度規制につながるよう、ドライバーへのモラルの啓発を行います。	短期
	安心して歩けるよう、危険な箇所については交通安全対策を検討し、道路管理者に働きかけます。	短期



2. 活気があり、快適に暮らせるまち

(1) 地区内外が移動しやすいまちづくり

①南北方向への道路機能の強化

《現状と課題》

- 小山田地区には、ミルクロード、フラワーロードや県道宮妻峽線などの幹線道路がありますが、これらの幹線道路は地区の中心部を通っておらず、集落間をつなぐ南北方向の道路機能が弱いため、地区内の移動がしづらい状況があります。このため、地区内における南北方向の道路機能の強化が望まれます。

《取組方向》

だれが	なにを、どのように	いつごろ
行政や関係機関に働きかけること	地区住民の意識を高めながら、地区内における南北方向の移動の円滑化について検討し、行政に働きかけるとともに、地域としての協力体制の構築を図ります。	長期

②高速バス等の新たな交通手段の検討

《現状と課題》

- 一方、広域的な観点からは、高速道路のインターチェンジへのアクセスの良さと駐車場の確保のしやすさなどを生かし、小山田地区と名古屋とを結ぶ交通手段により、地区から出かけやすくすることが望まれます。

《取組方向》

だれが	なにを、どのように	いつごろ
地域と企業や団体が協働して取り組むこと	現行の高速バス（桜・名古屋間）の小山田地区までの延伸を要望します。	中期

③その他の交通手段の活用

《現状と課題》

- 小山田地区では、山田町内を通る小山田記念温泉病院を起点とするバス路線、西山町、小山町を通る宮妻口及び椿大神社を起点とするバス路線がありますが、いずれも本数が少なく、利用しづらいのが現状です。また、いずれも中心市街地に向かう路線のため、地区内の移動には向かないことも問題です。今後、高齢化が進む中で、マイカーを運転できない人が増えると考えられることから、バス路線やそれに代わる交通手段を確保していくことが必要です。

《取組方向》

だれが	なにを、どのように	いつごろ
地域と企業や団体、行政が協働して取り組むこと	交通弱者の移動手段確保のために、地区内コミュニティバス等の導入について検討します。 その実現のため、資金、人（企業、NPOなど）については、既存資源（青山里会など）や四日市市自主運行バス事業補助金の活用を検討します。また、ルートについては、山田町を中心とした地区内循環ルートを検討します。	中期



(2) 若者などが気軽に住める（戻ってこられる）まちづくり

①若年世帯の居住促進環境の創出

《現状と課題》

- 小山田地区は南部工業団地を除く全域が市街化調整区域であり、これまで、宅地開発は限られたものとなっていました。生活の場として便利な環境を求める若者などは、地区外に住宅を持つ傾向があり、それが人口の流出につながっていたと言えます。その中で、平成28年4月に「四日市市開発許可等に関する条例」が一部改正され、人口減少がみられる地域の集落を維持するために居住の条件が緩和され、小山田地区もその対象地域となりました。一方、小山田地区は周辺に働く場があり、市内の工業地帯のみならず、鈴鹿市、亀山市、菰野町などにも通勤しやすい位置にあります。上記のような制度を活用して人口の流出を抑制し、Uターン・Iターンを促していくことが求められます。

《取組方向》

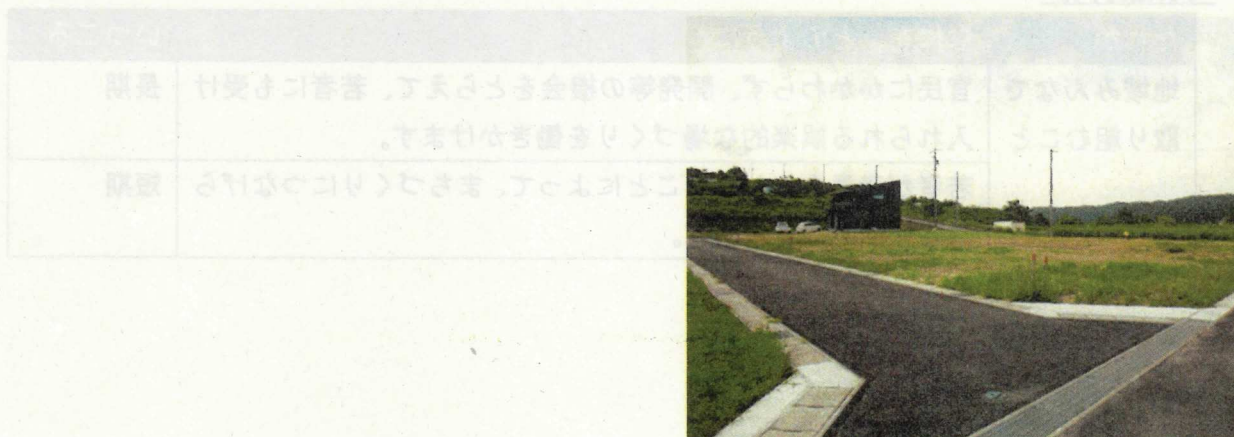
だれが	なにを、どのように	いつごろ
地域みんなで取り組むこと	Uターン・Iターン等による新規居住者を増やすため、住み替え支援事業等を活用して若者などが居住しやすい環境を整えるとともに、条件の良さのPRに努めます。	短期

いっしょに未来を築いていくまちづくり

《現状と課題》

小山田地区は南部工業団地を除く全域が市街化調整区域であり、これまで、宅地開発は限られたものとなっていました。生活の場として便利な環境を求める若者などは、地区外に住宅を持つ傾向があり、それが人口の流出につながっていたと言えます。その中で、平成28年4月に「四日市市開発許可等に関する条例」が一部改正され、人口減少がみられる地域の集落を維持するために居住の条件が緩和され、小山田地区もその対象地域となりました。一方、小山田地区は周辺に働く場があり、市内の工業地帯のみならず、鈴鹿市、亀山市、菰野町などにも通勤しやすい位置にあります。上記のような制度を活用して人口の流出を抑制し、Uターン・Iターンを促していくことが求められます。

《取組方向》



②空き家、空き農地の活用による居住環境の整備

《現状と課題》

- 人口減少にともない、全国的に空き家が増えています。空き家対策を進めるための法律などもでき、市においても空き家バンク制度の運用を行うなど、取り組みは進みつつあります。しかしながら、所有者が手放さなかったり、耐震上の問題があったりと、空き家を活用するためには様々な課題があります。同様に、空き地や遊休農地についても増加傾向にあり、問題となっています。今後は、小山田地区内にも増えつつある空き家、空き地、遊休農地などを有効に活用することによって、居住環境の改善につなげることが求められます。

《取組方向》

だれが	なにを、どのように	いつごろ
地域みんなで 取り組むこと	市民農園のようなイメージで農地を貸せるようにすることによって、新規居住者の呼び込みを図ります。	短期
	空き家や遊休農地を有効に活用できるよう、情報を集めて提供するなど、地域のサポート体制を検討します。	中期

③若者なども楽しめる場・機会づくり

《現状と課題》

- 小山田地区は、市中心部に比べて自然環境などが豊かである一方、都市的な要素は限られていると言えます。今後は、静かで過ごしやすい環境を生かしながら、快適さや娯楽的要素を充実させることによって、小山田地区に住むことの魅力を高めていくことが求められます。あわせて、若者の意見をまちづくりに取り入れることで、若者が住み続けたいくなる環境づくりを進めることも必要です。

《取組方向》

だれが	なにを、どのように	いつごろ
地域みんなで 取り組むこと	官民にかかわらず、開発等の機会をとらえて、若者にも受け入れられる娯楽的な場づくりを働きかけます。	長期
	若者が意見を出し合うことによって、まちづくりにつなげられる機会をつくれます。	短期

(3) 地区内に拠点ができ、集えるまちづくり

①各種施設の集約化

《現状と課題》

- 小山田地区の拠点となる施設としては、小山田地区市民センター、小山田小学校などの公共施設や、農業支援と金融の機能をもつJA小山田支店などがあります。しかし、それぞれの施設は離れており、住民によって利便性がよい状況ではありません。

《取組方向》

だれが	なにを、どのように	いつごろ
行政や関係機関に働きかけること	各施設をより利用しやすくすることによって、拠点性を高められるよう努めます。	長期
地域と企業や団体が協働して取り組むこと	利便性を高めるために、公共ゾーン、学童ゾーン、商工業ゾーン、医療・福祉ゾーンなどのゾーニングを検討するとともに、各ゾーンに応じた生活拠点としてのあり方を検討します。	中期

②公共施設、商工業施設の誘致

《現状と課題》

- 小山田地区には広域的に利用される公共施設がなく、スーパーなどの大規模小売店舗もありません。一方で、ミルクロードとフラワーロードが交わることから、利便性の高い立地条件を持っています。地区住民の生活の利便性を高めるためには、文化施設や商工業施設が必要ですが、地区内は市街化調整区域であり、さらに農用地区域が多くあり、都市整備は制限されています。

《取組方向》

だれが	なにを、どのように	いつごろ
行政や関係機関に働きかけること	官民にかかわらず、開発等の機会をとらえて、文化施設や商工業施設の立地を働きかけます。 なお、地区内の適地の有効利用等を促します。	中期

③スポーツ施設や公園等の設置促進

《現状と課題》

- 健康意識の高まりからジョギングなどのスポーツを行う人は増えています。小山田地区の自然環境や広々とした空間を生かして、地区内外から人びとが集まるスポーツやレクリエーションの場を提供するためのスポーツ施設や公園などの整備を促していくことが求められます。

《取組方向》

だれが	なにを、どのように	いつごろ
地域と企業や団体が協働して取り組むこと	地域において、河川沿いにサイクリングロードの設定を検討します。	中期
	旧環境保全事業団用地、幸福村公園など、企業・団体が所有する緑地等の敷地を利用した散歩道、ジョギングコース、また子どもから大人までが憩える場などの整備を働きかけます。 整備にあたっては、地域も協働で取り組みます。	短期

3. 自然や農業を通じてまとまり、つながるまち

(1) 自然と美しい景観を守るまちづくり

① 自然や景観の保護、活用

《現状と課題》

- 小山田地区には自然が豊富にあり、季節を彩る桜、ヒメコウホネなどの花々、ウグイスやキジなどの野鳥、ホタルなどが身近に見られます。また、小山田桜や大楠など、シンボリックな木々もあります。丘陵地の脇から湧き出るマンボの水は夏でも冷たく、かつては生活や農業を支えていました。こうした身近にある美しい自然の現状について、より詳細に知ることが大切です。

《取組方向》

だれが	なにを、どのように	いつごろ
地域みんなで 取り組むこと	自然資源の現状把握（洗い出し）を行い、「山田町自然を守る会」をはじめとする今ある自然を守る取り組みの継続や強化を図っていきます。	短期



②自然を活用したイベント等の実施

《現状と課題》

- 谷筋には田んぼが、丘陵地には茶畑が広がるとともに、丘陵地の縁には緑の木々が生い茂り、小山田地区の景観を創り出しています。その中で、人の手が入らなくなり荒れ気味であった竹林をボランティアが整備したり、休耕田にひまわりやコスモスを植えたりすることにより、この地区の景観を守り、育てていこうという取り組みが始まっています。今後、景観を保全しつつ、さらに活用を図る方法を考えていくことが求められます。

《取組方向》

だれが	なにを、どのように	いつごろ
地域と企業や団体が協働して取り組むこと	小山田地区の美しい自然を生かしたウォークラリーイベントを開催するなど、地区住民だけでなく広く地域外からの参加を募り、地域の自然の保護の大切さを訴えていきます。	短期

③荒れ地の整備、不法投棄対策

《現状と課題》

- ミルクロード沿いなどでは優良農地の茶畑が広がるところがある反面、荒れ地となっておりところもあります。また、条件の良い農地でさえも、担い手の不足などにより耕作放棄が見られます。荒れた土地は景観上の問題もさることながら、不法投棄の温床ともなり得ることから、何らかの対策が求められます。

《取組方向》

だれが	なにを、どのように	いつごろ
地域と行政が協働して取り組むこと	データを集めるだけでなく、市の補助金や支援策を活用しながら荒れ地対策を進めます。	短期
	将来の荒れ地対策につなげられるよう、子どもたちが農業の重要性への理解を深めるための農業体験や食育に取り組めます。	短期

(2) 地区全体で取り組む農業のまちづくり

①農業を生かした組織づくり

《現状と課題》

- 小山田地区はこれまで、その農地の特性から、丘陵部では茶が、谷あいの河川沿いでは稲が、それぞれ主に作られ、農業が盛んな地域として発展してきました。優良農地の整備をはじめ、道路や排水などといった集落の環境整備においても、農業とのかかわりにおいて進められてきました。しかし、農業を取り巻く環境は非常に厳しく、輸入農産物との価格差、コストの増大などから農業所得は増えず、その結果、担い手となる農業後継者は不足し、高齢化にともない離農が進み、耕作放棄が増える悪循環となっています。

今後、小山田地区全体として農業を続けていくためには、作って欲しい農産物と作れる農家とをつないだり、農地を持つ人と農地を探している人をつないだりしていくことが必要です。そのためには、農地に関する情報、農家に関する情報、農作物のニーズに関する情報などをひとつに集約し、共有していくことが求められます。

《取組方向》

だれが	なにを、どのように	いつごろ
地域と行政が協働して取り組むこと	小山田地区のまちづくりでは、「どうすれば持続可能な農業ができるか」や「農地をいかに守り、後世に残していくか」をテーマに、小山田地区で農業を考えるための組織をつくり、荒れ地対策など、農業を守る取り組みを進めます。	短期



②定年後に農業ができるしくみづくり

《現状と課題》

- 大規模な専業農家として農業を続けていける農家は一部の認定農業者に限られますが、一方で、定年後に小規模ながら農作業したいというニーズも一定程度あるものと考えられます。こうした小規模な農業によって、農地の維持や高齢者の生きがいづくり、都市部の住民との交流など、地域の活性化につなげられることから、定年後などの農作業のニーズを持つ人びとが、組織的に農業に取り組めるしくみをつくる必要があります。

《取組方向》

だれが	なにを、どのように	いつごろ
地域みんなで取り組むこと	定年後の人が集まり、情報を共有し、共同作業が進められるよう、組織を作ります。	中期
行政や関係機関に働きかけること	補助金の要請、新たな制度や施策の情報提供など、小規模農家でも耕作できる環境づくりを働きかけます。	短期

③農業体験、農業イベントの実施

《現状と課題》

- 郷土愛を育み、それを未来へとつなげていく上で大切なことは、地域のことをよく知り、体験を共有することです。小山田地区では、農業を通じて発展してきた歴史があり、その上に今の地域があるということを子どもたちに伝えていく必要があります。現在、小山田小学校では3年生児童が地域を巡り、農作物や地域の施設などを見学するほか、地域住民の協力によって芋煮会が開催されています。今後は、子どもたちがより身近に感じられるよう学校行事だけでなく、地域の行事として田植えや茶摘みなどの農作業体験を行い、農業や農業文化を次代に引き継いでいく取り組みが求められます。

《取組方向》

だれが	なにを、どのように	いつごろ
地域と企業や団体が協働して取り組むこと	次代を担う子どもたちが、田植え体験や野菜の収穫など、農業体験ができるイベントの実施を検討します。	短期
地域みんなで取り組むこと	芋煮会について、地域行事として継続して実施していきます。	短期

(3) 地区内外の人が新鮮な農産物を手に入れられるまちづくり

①産直（朝市）の場づくり

《現状と課題》

- 都市住民を中心に安全安心な農産物を手に入れたいというニーズがあり、産地直送・直売による農産物売り場はにぎわいを見せています。小山田地区においても、農業を中心として発展してきた地域として、地域内外の人が野菜などの新鮮な農産物を手に入れられるよう、また、小山田地区の農業者が自分の農産物を「顔の見える」形で売ることができるよう、朝市などといった産直の場をつくることが求められます。

《取組方向》

だれが	なにを、どのように	いつごろ
地域みんなで 取り組むこと	文化祭などの地区行事や青山里会の行事などに合わせて、農産物の販売を試行します。	短期

②産直のための組織づくり

《現状と課題》

- 現在のところ、小山田地区では、産地直送・直売を行っている農業者はごく一部に限られると思われます。今後、産直を効果的に進めるためには、売するための場が整うと同時に、地域の中で農産物を揃え、朝市などを定期的で開催していくための体制を整える必要があります。

《取組方向》

だれが	なにを、どのように	いつごろ
地域みんなで 取り組むこと	9町から農業者の代表を出して組織をつくれます。	短期

③特産品づくり

《現状と課題》

- 小山田地区では茶と米が中心に栽培されてきましたが、いずれも価格が低迷し、先行きが厳しい状況です。今後、産直などの場で付加価値の高い商品を販売していくためには、農産物の品質を高めたり、ブランドイメージを加えたりするほかに、新たな特産品を導入していくことも必要です。さらには、茶を和紅茶として販売することや「6次産業化」を視野に入れることも必要です。

《取組方向》

だれが	なにを、どのように	いつごろ
地域と企業や 団体、行政が 協働して取り 組むこと	専業農家を中心に、地域に合った農産物を研究・検討します。	中期

4. ふるさと愛を育み、発信するまち

(1) 地域の文化、伝統行事が引き継がれるまちづくり

①地区全体での祭り、行事の実施

《現状と課題》

- 四日市市でも、鯨船行事がユネスコの無形文化遺産に登録されたように、古くから伝わる伝統行事が改めて見直されています。小山田地区の各町では、それぞれの町にそれぞれの祭りや行事があり、六名町の獅子舞、小山田と山田町の巫女舞、小山町と鹿間町の盆踊り、和無田町の「ふれあい行事」、加富神社の天王祭などが受け継がれています。各町の行事は地元の保存会や愛好会によって継承されていますが、人口減少や若者の流出などによって、年々、行事の実施が難しくなりつつあります。小山田地区の大切な文化として、後世に引き継いでいくためには、その行事の成り立ちなどを地区住民が理解できるような取り組みが求められます。

《取組方向》

だれが	なにを、どのように	いつごろ
地域みんなで取り組むこと	各町の伝統行事を大切に守り続けていくとともに、小山田地区として祭りや行事を共有していきます。	短期

②後継者の育成

《現状と課題》

- 祭りや行事においても、伝えるのは「人」であり、「技」の伝承が不可欠です。これまで、こうした「技」の伝承は、口伝であったり、見よう見まねであったりしながら、長い年月を伝わってきたものですが、後継者が限られる中では、できる限り可視化した形で伝えていく必要があります。

《取組方向》

だれが	なにを、どのように	いつごろ
地域と企業や団体が協働して取り組むこと	企業や団体からの資金的な援助を得ながら、加富神社の祭りや六名町の獅子舞などを継承し、世代間の交流の場を通した後継者の育成に努めます。	短期
	祭りや行事を継承していくため、映像化などに取り組みます。	短期

(2) 住民どうしが仲良く交流するまちづくり

①地区全体での文化祭、運動会の開催

《現状と課題》

- 郷土愛を育む上で重要な要素となるのは、いかに地域にかかわり、地域の中で交流するかということです。小山田地区では、毎年、地区文化祭、地区運動会が続けられ、地区住民の交流機会となっています。また、青山里会が主催する温泉まつりなども、地区住民の楽しみとなっています。小学生へのアンケートでも、こうした交流行事の多さが「好きなところ」として取り上げられており、続けてほしいという願いが寄せられています。地域のつながりを保ち、未来につなげていくために、こうした行事を継続・発展させることが求められます。

《取組方向》

だれが	なにを、どのように	いつごろ
地域みんなで 取り組むこと	地区運動会は住民が楽しめる場として、今後も継続して開催していきます。	短期
	地区文化祭のさらなる発展のために、内容（バザー、展示、サークル発表など）や会場の見直しなど、地区文化祭のあり方について検討します。	短期
	文化祭などの場において、農産物の直売、各町の紹介、郷土料理の紹介など、発信と交流の場にしていきます。	短期

②外国人住民との交流

《現状と課題》

- 市内には、最も多かった平成20年度よりは減少したものの、現在も8,000人近い外国人が住んでいます。小山田地区でも、地区内の南部工業団地で多くの外国人が働いており、地区内に居住している人もいます。外国人住民はその国の文化や宗教などから生活習慣なども異なりますが、多文化共生の観点から、同じ小山田地区に住む住民として、交流を深めていくことが求められます。

《取組方向》

だれが	なにを、どのように	いつごろ
地域みんなで 取り組むこと	地区内に住む外国人住民に対して、交流のきっかけづくりを検討します。	短期

(3) 小山田地区の良いところを知り、発信するまちづくり

①地区の歴史、史跡などのマップづくり

《現状と課題》

- 地区の良いところを知り、発信するためには、可視化することが有効です。小山田地区でも、これまで名所マップや歴史年表などとしてまとめたり、ホームページ上で公開したりしてきましたが、このまちづくり構想の検討材料をもとにした「つながるマップ」が、平成28年12月に完成しました。今後も、こうしたマップを最大限活用し、地域住民の地域への理解を深めたり、来訪者への案内を充実させたりすることに加え、さらに歴史や史跡などの伝承、郷土料理などの生活文化といった地域資源をまとめ、後世へと伝えていくことが求められます。

《取組方向》

だれが	なにを、どのように	いつごろ
地域と行政が協働して取り組むこと	完成したマップ・看板について、市民センターの前だけではなく、主な資源のある現地に立て、案内表示や説明文を加えます。	短期
地域みんなで取り組むこと	地区全体の歴史や方言、郷土料理などを調査・研究するグループを再結成し、各町でまとめた「百年史」などの資料を活用します。	短期

②新たなシンボルづくり

《現状と課題》

- 郷土に対する愛着を持ち、他地域に向けて発信していく上で有効なものが、地区を象徴するような「シンボル」です。四日市市であれば「こにゅうどうくん」が公式キャラクターとなっていますが、この他にもシンボルマーク、キャッチフレーズ、歌などが考えられます。現在、小山田地区にはシンボルとなるものの候補として、小山田桜、ヒメコウホネ、堂ヶ山の大楠、獅子頭などがありますが、こうしたものを地区住民で考え、共有していくことで、地区住民のつながりの象徴としていくことが求められます。

《取組方向》

だれが	なにを、どのように	いつごろ
地域みんなで取り組むこと	地区全体の住民のつながりを意識できるよう、地区のシンボルを考える会を立ち上げます。	短期

4 まちづくり構想の実現に向けて

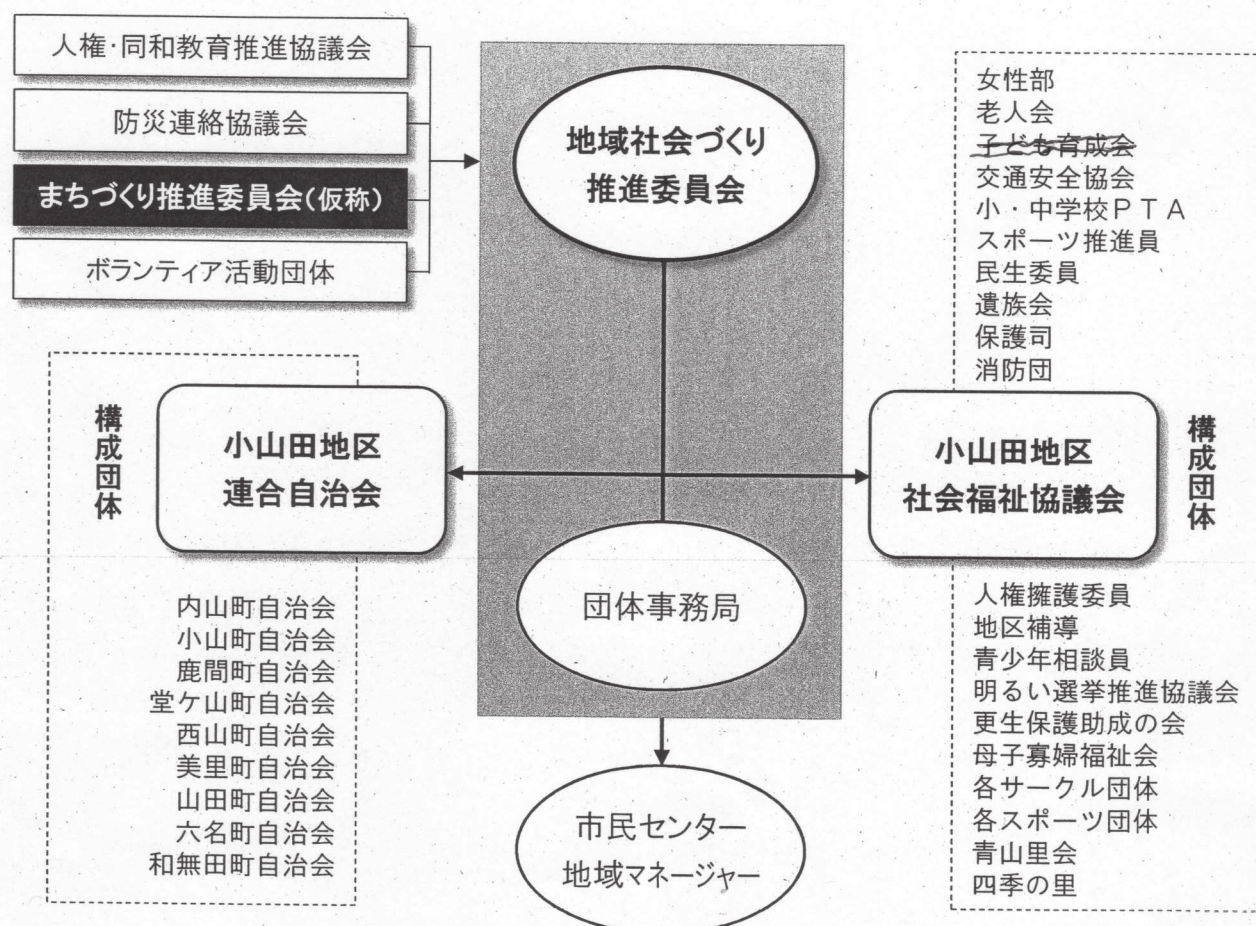
4 まちづくり構想の実現に向けて

1. 推進体制

この「小山田地区まちづくり構想」は、今後の小山田地区のまちづくりにおける課題解決のためのアイデアであり、構想を具体化していくうえでは、構想の策定の中心を担った「小山田地区まちづくり委員会（まちづくり構想策定委員会）」をはじめ、地区で活動しているさまざまな団体や企業、そしてより多くの住民がまちづくりに意欲的に参画し、行政との協力関係を継続しながら、適切に役割を分担して協働していくことが不可欠です。

今後も継続的に話し合いの場を設け、課題を共有し、意見交換等を行っていくことが大切であることから、「まちづくり委員会」を母体としながら、今後は「**小山田地区まちづくり推進委員会（仮称）**」として組織体制を再編強化し、地区のさまざまな関係者の意見や活動を調整し、取り組みを推進します。

【小山田地区内各種団体・組織の概念図】



2. 意識の共有と協働まちづくり

この構想の推進にあたり、地区住民等が問題意識を共有し、必要に応じて合意形成がなされなければ、取り組みの多くは実現することができません。加えて、地区住民や関係団体・企業等が自ら主体的に活動していくことをはじめ、道路や公共施設等の主にハード面の整備を行う「事業的手法」、住民等と行政とが協力しながら良好なまちづくりを進める「規制・誘導的手法」などのさまざまな方法を適切に組み合わせながら進めていくことになり、それぞれの主体が「主人公」としての意識を持ち、自らの役割を認識して、協働のもとで取り組むことが重要です。

このため、「まちづくり推進委員会（仮称）」が主体となって、この構想の普及・啓発及び進捗状況についての情報発信に努めるとともに、地区住民や関係機関の意見交換の場となる勉強会や説明会等を開催するなど、意識共有と協働のもとでまちづくりを進めていきます。

5. まちづくり構想図

-  地区市民センター
小学校
-  9町の位置
-  南北方向の道路
機能の強化・
移動手段の確保

施設の凡例

- ① 小山田地区市民センター
- ② 小山田小学校
- ③ 西陵中学校
- ④ 学童保育「ひまわり」
- ⑤ 小山田記念温泉病院
- ⑥ 小山田在宅介護支援センター等
- ⑦ JAみえきた 小山田支店
- ⑧ 南部工業団地
- ⑨ 南部清掃工場
- ⑩ 新小山最終処分場



